

令和6年度 建築物石綿含有建材調査者講習(一般) 修了試験問題

<合格基準>

- (1) 修了考査の採点は、受講者が受講した各科目の配点の合計をもって満点とする。
- (2) 合格は、受験した各科目の得点が各科目の配点の 40 パーセント以上であつて、かつ、
受験した科目の得点の合計が、受験した科目の配点の合計点の 60 パーセント以上である場合とする。
- (3) 前項の合格基準に合致しない者及び不正行為を行った者は、不合格とする。

A 建築物石綿含有建材調査に関する基礎知識 1

1. 建築物石綿含有建材調査に関する①～⑤の記述のうち、不適切なものの一つを選びなさい。

- ① 書面調査、目視調査を踏まえて、石綿含有の疑いがある建材が存在しなかった場合も、石綿含有建材がない旨の建物調査報告書を作成し、建築物の所有者等で調査を依頼した者に提出する。
- ② 2006（平成 18）年には労働安全衛生法施行令が改正され、石綿を 5 重量パーセントを超えて含有する製品の製造等が原則禁止された。
- ③ 2023 年 10 月に、事前調査のうち建築物に係るものについては、建築物石綿含有建材調査者またはこれと同等以上の能力を有する者が行うことが義務化された。
- ④ 建築物石綿含有建材調査には、「改修の事前調査」、「解体の事前調査」、「維持管理のための建築物調査」の 3 種類がある。

2. 石綿の定義、種類、特性に関する①～⑤の記述のうち、不適切なものの一つを選びなさい。

- ① アモサイトとクロシドライトは吹付け石綿として使用され、クロシドライトは石綿セメント管にも多く使用された。
- ② 解体される建材の種類等による石綿ばく露の分類において、レベル 2 の石綿含有建材には、保温材、断熱材、耐火被覆材が分類され、煙突断熱材も含まれる。
- ③ 厚生労働省通達では、石綿を「繊維状を呈しているアクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト及びトレモライト」と定義している。
- ④ 石綿の特性として、引張りには弱い、摩擦・摩耗には強い点がある。

3. 石綿による疾病、環境の石綿濃度に関する①～⑤の記述のうち、不適切なものの一つを選びなさい。

- ① 中皮腫は、他の疾患に比べ石綿ばく露との因果関係が非常に強いが、潜伏期間は短い。
- ② 石綿等を取り扱う工場等の敷地境界における石綿粉じん濃度は、大気汚染防止法において、規制基準として、10 f / L が定められている。
- ③ 石綿粉じんの人体の吸入経路は、「1. 鼻腔」→「2. 喉頭」→「3. 気管」→「4. 気管支」→「5. 細気管支」→「6. 肺胞」である。
- ④ 中皮腫とは、中皮細胞の存在する胸膜、腹膜、心膜、精巣鞘膜に発生する悪性腫瘍をいう。

4. 建築物と石綿関連疾患、気中石綿濃度、健康影響評価に関する㉠～㉣の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㉠ 吹付け石綿が使用されている建築物では、物理的な接触により石綿の飛散が発生する。例えば、天井面へボールや棒を当てる場合は12～18f/Lで、ほうきでこする場合も、石綿繊維の気中濃度の差はないという結果が報告されている。
- ㉡ 日本において「吹付け石綿のある部屋・建物・倉庫等での作業（建設業以外）」に分類された石綿関連疾患の発症事例は、100名を超えていて、疾患としては、石綿肺が最も多い。
- ㉢ 複数の建物を調査する場合に、国土交通省が定めた建築物の石綿含有建材調査の優先度では、子供が長く滞在する建築物は優先順位が最も高い。
- ㉣ 中皮腫の死亡率は石綿累積ばく露量に比例し、肺がんの死亡率は石綿累積ばく露量だけでなく経過年数の影響が大きい。

B 建築物石綿含有建材調査に関する基礎知識2

5. 大気汚染防止法、建築基準法その他関係法令に関する㉠～㉣の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㉠ 大気汚染防止法では、建築物を解体する作業を伴う建設工事であって、当該作業の対象となる床面積の合計が80㎡以上であるものについては、石綿含有建材の有無にかかわらず、調査結果の都道府県知事への報告が義務付けられている。
- ㉡ 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）では、建築物等の分別解体等のための調査が義務づけられており、また、自治体の条例でも調査義務が課せられている場合もある。
- ㉢ 建築基準法では、建築物等の増改築時には、吹付け石綿および石綿含有吹付けロックウールを全て除去することが義務付けられており、例外の適用はない。
- ㉣ 大気汚染防止法では、石綿含有仕上塗材は特定建築材料に該当する。

6. 下表は、建設リサイクル法の対象建設工事と規模である。選択肢①、㊥、㊦、㊧は、表中の空欄㉠、㉡、㉢、㉣に該当する規模を示したものである。規模の組合せとして正しいものを一つ選びなさい。

対象建設工事	規 模
建築物に係る解体工事	㉠
建築物に係る新築工事・増築工事	㉡
その他工作物に関する工事（土木工事等）	㉢
建築物に係る修繕・模様替等工事（リフォーム等）	㉣

- ① ㉠請負代金の額 500 万円（税込）以上
㉡請負代金の額 1 億円（税込）以上
㉢建築物の延床面積の合計 80 m²以上
㉣建築物の延床面積の合計 500 m²以上
- ㊥ ㉠請負代金の額 500 万円（税込）以上
㉡請負代金の額 1 億円（税込）以上
㉢建築物の延床面積の合計 100 m²以上
㉣建築物の延床面積の合計 500 m²以上
- ㊦ ㉠建築物の延床面積の合計 100 m²以上
㉡建築物の延床面積の合計 500 m²以上
㉢請負代金の額 500 万円（税込）以上
㉣請負代金の額 1 億円（税込）以上
- ㊧ ㉠建築物の延床面積の合計 80 m²以上
㉡建築物の延床面積の合計 500 m²以上
㉢請負代金の額 500 万円（税込）以上
㉣請負代金の額 1 億円（税込）以上

7. 石綿含有建材調査者に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 調査対象の石綿含有建材の劣化が進んでいて、早期に何らかの対策が必要であれば、石綿含有建材調査者はその旨を所有者などに報告する。
- ㊷ 石綿含有建材調査者は、建築物の調査によって建築物の所有者や占有者などの個人的、経営的情報に触れることになるが、調査活動を通じて得た情報に関する機密保持義務がある。
- ㊸ 石綿含有建材調査者には、石綿含有建材の維持管理方法に関する知識を有することも必要である。
- ㊹ 石綿含有建材調査者は、解体工事時において、その建築物に使用されている建材のうち一部の建材について調査をする必要がある。

8. 石綿含有建材調査者に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 解体・改修工事の施工者や建築物の所有者などは、石綿含有建材調査者又は石綿作業主任者の実施した書面調査の結果に基づいて、目視調査の範囲を決定する。
- ㊷ 石綿の含有状態の判断が困難な場合は、適切な試料採取と精確な分析評価を実施する。
- ㊸ 調査において、石綿含有建材調査者は、自らの石綿ばく露に注意することはいうまでもないが、共用中の建築物内部の生活者、労働者等の石綿ばく露を回避・低減するための十分な配慮も必要である。
- ㊹ 石綿含有建材調査者は、石綿に関する知識だけでなく、対策や工法にも精通しておくことが必要である。

C 石綿含有建材の建築図面調査

9. 建築一般に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 建築基準法において、面積区画、高層区画、堅穴区画と接する外壁は、接する部分を含み 90cm 以上の部分を耐火構造または準耐火構造としなければならない。
- ㊷ 建築基準法の防火規制では、建築物の用途や規模に応じて、居室や廊下・階段などの壁や天井の仕上りを準不燃材料や難燃材料とすることが義務付けられている。
- ㊸ 建築基準法では、国民の生命、健康及び財産の保護を図るため、建築物の防火規制を定めている。
- ㊹ 建築基準法において「延焼のおそれのある部分」とは、建築物の外壁部分で隣棟から延焼を受けたり、及ぼしたりするおそれのある範囲を指し、道路境界線より 1 階にあつては 3m 以内、2 階以上にあつては 5m 以内の距離にある建物の部分をいう。

10. 建築一般に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 建築基準法において「構造上重要ではない間柱、附け柱」は、建築物の主要構造部である。
- ㊷ 解体・改修時の事前調査では、建築一般の知識を頭に入れておくことは見落としを防いだり、建材の代表性を誤って判断することを防止することにつながるため、非常に重要である。
- ㊸ 建築基準法施行令第1条3号において、「構造耐力上主要な部分」について、建築物の力学的構造に関連する部分を定めている。
- ㊹ 建築基準法において、劇場、映画館または演芸場の用途に供するもので、主階が1階にないものは耐火建築物としなければならない。

11. 建築設備に関する㊶～㊸の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊶ 電気設備において、ケーブルが上下階や壁を貫通する場合に生じた、すき間を埋める際に使用するパテ材には石綿は使用されていない。
- ㊷ 空調設備において、冷温水を使って空調する方式のうち、ファンコイルユニットでは、吸音をかねてファンコイル設置の場所の壁に吹付け石綿が施工されていた。
- ㊸ 暖房、冷房、換気、冷却塔等の換気・空気調和設備は、建築基準法上では、建築設備に該当しない。
- ㊹ 電気設備において、ケーブルが上下階や壁を貫通する場合の防火区画貫通処理に、「けい酸カルシウム板第2種」を使用することはない。

12. 石綿含有建材に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 石綿含有吹付けパーライトが使用された目的は、吸音、断熱、結露防止、化粧仕上げであり、代表的な製品名は「アロック」「ダンコートF」である。
- ㊷ レベル1の石綿含有建材は施工方法や材料によって6種類に分類されるが、そのうち石綿含有吹付けロックウールの施工方法は、乾式吹付け、半乾式吹付け、湿式吹付けの3つの工法がある。
- ㊸ 柱、はりの耐火被覆及び耐火間仕切り壁に用いられる石綿含有吹付けロックウールの湿式吹付けの比重は、0.3以上(耐火の場合)である。
- ㊹ 石綿含有建材の最終製造年はいくまで目安であり、使用時期以降でも石綿を含有している場合があるので注意する。

13. 石綿含有建材に関する①～㊦の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 石綿を含有している断熱材には、煙突用石綿断熱材と屋根用折板裏石綿断熱材があり、多くの煙突は円筒型であるが、角型の煙突に対しては平面の形状をした煙突用石綿断熱材が使用された。
- ㊡ 石綿を含有している耐火被覆材(成形板)は、「石綿含有耐火被覆板」と「けい酸カルシウム板第1種」だけである。
- ㊢ 1980(昭和 55)年にロックウール工業会の自主規制により、会員各社が石綿含有吹付けロックウールの使用を中止し、ロックウール工業会所属のメーカー各社は、石綿を添加しないロックウールだけのものに変更したが、会員以外のメーカーの吹付け石綿の使用や物流における業者の在庫などもあったことから、1980(昭和 55)年以降の数年間石綿含有吹付けロックウールが施工されていた可能性も考慮しなければならない。
- ㊤ 石綿を含有している保温材は、建築物、構造物、船舶などに多く使用されており、高温や低温の液体用の配管用鋼管、タンク、タービン、焼却炉の外周部などの保温、断熱、防露を目的として使用されていた。

14. 石綿含有建材に関する①～㊦の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 「a マーク」の表示は、通常は製品1枚に1か所なので「a マーク」があれば“石綿あり”といえ、なければ“石綿無し”といえる。
- ㊡ 石綿含有スレートボードには、フレキシブル板、平板、軟質板及び軟質フレキシブル板の4種類があるが、外観だけでは判別が非常に難しいため、調査においてはスレートボードとしてまとめてよい。
- ㊢ レベル3とされている石綿含有建材の特徴は、種類や品数がレベル1、2よりも圧倒的に多い。
- ㊤ 軽微な場合も含め、解体・改修工事に際しては、適確に石綿含有建材の使用状況などを調査し、含有していないことが確認された場合以外は、適切な飛散やばく露防止措置を講じ、発生する廃棄物を適正に処理することが求められる。

15. 石綿含有建材に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 石綿含有ロックウール吸音天井板は、一般建築物、事務所、学校、講堂、病院等の医療施設等の天井に不燃・吸音天井板として多く使用されている。
- ㊷ 石綿含有パーライト板は、主に、工場、倉庫、事務所などの内装材として壁材および天井下地材に使用されている。
- ㊸ 石綿含有壁紙は、建築基準法に基づく内装制限がかかる避難階段、通路、エレベーターホール等の壁面や天井などに使用されている。
- ㊹ 石綿含有パルプセメント板は、耐水性が低いので内装材として使われ、外装材には使用されていない。

16. 石綿含有建材に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 石綿セメント円筒は、共同住宅において使用された例は無い。
- ㊷ 石綿含有ビニル床タイルは、事務所、病院、公共施設などの床に多く使用されている。
- ㊸ 石綿含有窯業系サイディングの補助資材のうち、同材質役物(出隅用、入隅用役物)の場合は、石綿を含有している場合がある。
- ㊹ 石綿含有住宅屋根用化粧スレートは、製品厚さが薄く、踏み割れしやすいことから、野地板は平滑な合板を使用し、隙間なく張り詰める方法が多い。

17. 石綿含有建材に関する㊶～㊸の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊶ 石綿含有シール材は、建築物では、主に配管やダクトの継ぎ目に使用されたが、建築物以外の工作物の配管や機械（オイル漏れ防止）には使用されていない。
- ㊷ 石綿含有接着剤は、JIS 規格に適合しない製品も製造・販売されており、石綿を使用しているものがあるので注意が必要である。
- ㊸ 石綿発泡体に使用されている石綿の種類は「クロシドライト」石綿で、石綿の含有率は10～20%と低い。
- ㊹ 石綿含有建築用仕上塗材自体は、塗膜が健全な状態では石綿が発散するおそれがないため、これを破断し、除去しても含有する石綿が飛散するおそれはない。

18. 書面調査の実施要領に関する㊦～㊩の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊦ 書面調査は、目視調査の効率性を高めるだけでなく、調査対象建築物を理解することにより、石綿建材の把握漏れ防止につながるものであるから省略すべきでない。
- ㊧ 書面調査の一連の過程において、より多くの有用な情報が得られるよう、調査者は、建築一般、建築設備、石綿含有建材の背景知識を習得しておくことが重要である。
- ㊨ 平成18年9月1日より前に着工された建物であっても、書面調査で石綿等の使用状況が把握できた場合は、目視調査を実施せず書面調査を以て調査を終了することができる。
- ㊩ 石綿調査の第1段階は、設計図書等の調査（書面調査）から始まる。

19. 図面の種類と読み方に関する㊦～㊩の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊦ 建築図面において、石綿含有建材の情報は、建築物概要書や特記仕様書、外部仕上表、内部仕上表、断面図、矩計図、などにあるが、平面図、天井伏図にはない。
- ㊧ 複数回、建築物所有者が変わっている建築物の場合でも、建築物売買の際に建築図面が必要となるため、建築図面が紛失されているケースはほとんどない。
- ㊨ 図面上の情報は、改修作業等の度に更新されるため、現在までの利用過程における改修作業等が反映されている。
- ㊩ 竣工図は、竣工時に設計図書（建築確認図を含む）を修正し、竣工書類の一つとして引き渡す図面であるが、テナント工事の未記入や修正ミス、記入漏れが多いため、参考資料として書面調査を行い、現場確認することが鉄則である。

20. 図面の種類と読み方に関する㊦～㊩の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊦ 矩計図や矩計詳細図には、断面詳細が記載されており、建築物の納まりや寸法などの他、天井の裏側や梁と外壁との関係なども読み取ることが可能である。
- ㊧ 内部仕上表には、間仕切壁や天井裏、ペリメータカウンター内や外壁等の裏打ちなどの直接見ることのできない部分の建材も記載されている。
- ㊨ 建築図面などを借用する場合、複製であれば、使用後は返却しなくてもよい。
- ㊩ 調査に当たる際は、建築確認図などの設計図書の借用書の交付は不要である。

21. 石綿含有建材情報の入手方法に関する㊦～㊨の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊦ 建材の石綿含有情報とは、石綿を意図的か非意図的かを問わず工場等で混入していたという情報である。
- ㊧ 国土交通省・経済産業省が公表している「石綿（アスベスト）含有建材データベース」は公認されたものであるため、データベースで検索した建材（商品）がないことを以て、石綿無しの証明となる。
- ㊨ 「石綿（アスベスト）含有建材データベース」は、メーカーが過去に製造した石綿含有建材の種類、名称、製造期間の情報を検索できるが、石綿の種類・含有率については検索できない。
- ㊩ 実際に使用されている建材が「石綿含有建材」か「否」かが判定できるのは、その建材の商品名が特定でき、メーカーが正確な情報を開示している場合である。

22. 書面調査結果の整理に関する㊦～㊨の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊦ 建築図面が全くない場合、推測で図面を作成することは認められないため、各階の概略平面図は作成すべきではない。
- ㊧ 建築図面がない場合でも、建築物の配置図・案内図がある場合が多く、これらを事前に入手したり、建築物の関係者より事前に、建築物概要（階数、面積、構造など）や竣工年、改修の有無などをヒアリングし、目視調査のために整理しておく。
- ㊨ 目視調査では、書面調査結果をもとに実際の現場で使用されている建材を確認し、分析が必要な試料の採取を行うこととなるため、書面調査結果は見やすく整理し、目視調査に持参する。
- ㊩ 必要に応じて、石綿データベース等により当該建材の特徴等を調べて、「整合性の確認表」に記入しておくことも目視調査の際に有効である。

D 目視調査の実際と留意点

23. 調査計画に関する㊶～㊿の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 一般に機械室やビル管理室などの居室、パイプシャフトの内部床、造作されたロッカーキャビネットなどの下などは、建築物の竣工当初の状態が保たれていることが多いので、これらの部屋で確認した建材とは明らかに施工年が違ような材料が使われていれば、改修履歴のあったことがわかる。
- ㊷ 建築物の目視調査の結果、試料採取すべき箇所から採取した試料の分析方法の決定は、発注者とよく協議する。
- ㊸ 改修や解体工事のための事前調査では、解体・改修等を行う全ての建材が対象であるが、内装や下地等の内側等、外観からでは直接確認できない部分については調査を省略できる。
- ㊿ 石綿含有建材調査者は、改修や解体工事のための事前調査や建築物などの適正な維持管理のための建築物調査を担うこととなるが、調査の手法や装備などは調査の目的によって異なる。

24. 事前準備に関する㊶～㊿の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 事前調査で使用する調査用品には、霧吹き、湿潤器、カメラ、ホワイトボード、ヘッドライト、懐中電灯、試料採取用密閉袋（チャック付きポリ袋）、粘着テープ、ハンマーなどの工具、ちり取りセット等がある。
- ㊷ 調査に必要な試料採取用密閉容器（チャック付きポリ袋）は、メモ書きが可能で、サイズは2～3種類用意する。
- ㊸ 調査時の装備について、第三者に伝えるという点に関しては、例えば「点検」、「調査」、「巡視」などと表示された腕章を装着することや、名札を首から掛けることなどが考えられる。
- ㊿ 調査時の服装のポイントは「石綿粉じんからのばく露防止対策」であるが、石綿の調査であることを第三者には知られたくないので、ビジネススーツ等で調査することが適切である。

25. 目視調査の実施要領に関する㊦～㊩の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊦ 事前調査では、石綿含有建材はほとんどが建築物の内部に使用されていることから、内部の各部屋から調査を始め、建物の外観は書面調査を行えば特に現地での確認の必要はない。
- ㊧ 目視調査に臨む基本姿勢として、同一パターンの部屋が続いたり、上下階の往復を何回か繰り返す必要がある場合でも、同一だからと調査対象の部屋を割愛したりしてはいけない。
- ㊨ 機械室などの現状の仕上げが比較的新しく見えた場合は、間違いなく改修工事があったことの証なので、あえて、関係者等へのヒアリングで確かめる必要はない。
- ㊩ 定礎は、調査対象の建築物の竣工時期、建築主、施工業者等の事項が刻印されているが、建築時期が不明なため、石綿含有建材の製造時期等に関連する重要な要素の参考にはならない。

26. 目視調査の実施要領に関する㊦～㊩の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊦ 試料採取の注意事項として、採取する際には屋内を閉め切り、石綿含有建材調査者のばく露を防止するため、換気扇を稼働させる。
- ㊧ 石綿含有建材の調査を行うにあたっては、石綿含有建材かどうかの判断ができればよいので、建築物の一般的な構造や建築基準法などの法制度に関する知識は必要ない。
- ㊨ 安全措置の確保ができていないような箇所では、無理をしないことが重要だが、何よりも調査することが第一であり、採取不能は認められない。
- ㊩ 解体・改修工事の事前調査では、過去の経験や建築の知識のみから類推して調査範囲を絞り込むのではなく、網羅的な調査を行うことが基本であり、見落としを防ぐために建築の知識等の修得を不断に努めることが必要である。

27. 目視調査の実施要領に関する㊦～㊩の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊦ レベル2の石綿含有建材のうち、けい酸カルシウム板第2種等は「表示」により石綿含有の有無について判断できる場合がある。
- ㊧ 石綿含有成形板裏面の認定番号については、不燃は「1,000 番台」、準不燃は「2,000 番台」、難燃は「3,000 番台」が記載されている。
- ㊨ レベル1の吹付け材は、石綿使用禁止以前に着工した建築物については、当該吹付け材の施工時期のみをもって、石綿等が使用されていないという判定を行わない。
- ㊩ 石綿含有建材調査者の石綿調査時の石綿ばく露は、石綿含有建材の除去作業に類似する可能性があることから、「12 カ月以内ごとに1回」、定期的に医師による健康診断を受けなければならない。

28. 目視調査の実施要領に関する㉑～㉓の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㉑ 工場や車庫などの壁材や天井材は、スレート波板を使用していることも多く、スレート波板は現在も石綿を含んでいないものが製造されているため、部分的に改修・交換している場合もある。
- ㉒ 目視調査を行う中で、点検口や器具の開口部もなく、部分的に解体しなければ調査できないような場所が見つかった場合は、調査を割愛し、調査報告書への記載も必要としない。
- ㉓ 調査において、同一と考えられる建材の範囲については、色を見たり、成形板であれば触ってみる、叩いてみる、外してみる等により、知識と経験を持って総合的に判断する。
- ㉔ 改修・解体のための事前調査では、必要があれば取外し調査（場合によっては破壊を伴う）を行い、すべての範囲について調査を行う必要がある。

29. 試料採取に関する㉑～㉓の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㉑ 吹付け材は、材料組成が「不均一」になっている可能性が高いので、試料採取は該当する吹付け面積を3等分し、各区分から1個ずつサンプルを採取する。
- ㉒ 吹付け材の試料採取は、該当吹付け材施工表層から下地の中間地点までの試料の採取を前提に行う。
- ㉓ 採取時における他の試料の混入を防止するため、採取箇所ごとに採取用具は洗浄するが、手袋は一日の作業終了時に洗浄して1週間程度は使い続ける。
- ㉔ 吹付け材において石綿の含有率が1%以下と低い場合は、「石綿無し」と判断できる。

30. 試料採取に関する㉑～㉓の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㉑ 内外装仕上げ材の下にレベル1建材が存在する事例として、天井ボードなどで囲われている様なケースにおいて、グラスウールなどの下に石綿含有建材が吹き付けられていたことがある。
- ㉒ 成形保温材と成形保温材のつなぎ目に不定形保温材を使用する場合があります、不定形保温材は成形保温材に比べて石綿含有期間が長いので、試料採取にあたっては、成形保温材と成形保温材のつなぎ目を貫通して試料を採取する。
- ㉓ 解体前の調査における建築用仕上塗材の試料の採取は粉じんが飛散ないように採取面に無じん水を散布（噴霧）してから、カッターナイフ、スクレーパ等で仕上塗材表面部分のみに刃先を入れ少しずつ剥離、採取する。
- ㉔ 吹付け材において、吹付け層全体の表面の色において、一部分、吹付け層の色が異なる場合は、その一部分は補修した可能性が高いため、その部分は既存部分とは別の試料として採取を行う。

31. 試料採取に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 採取した試料を分析機関に提出する際は、試料採取者と整理する者を分け、分業して実施するほうが効率がよい。
- ㊷ 設計図書や特記仕様書は仕上塗材の「一般名」が記載されていることが多く、実際に使用されている「製品名」を特定することは難しいので、分析により判定する。
- ㊸ 分析依頼書は、各分析方法で共通に使えるように、試料採取者、試料送付者、試料受取者、分析者までの個人名および実施日時が入る欄を設け、分析試料の受渡及び保管の責任を明確にして、各当事者が記入する。
- ㊹ 建築用仕上塗材の試料採取は、施工部位の3箇所以上から1箇所当たり容量10立方センチメートル程度を目安に試料を採取する。

32. 目視調査の記録方法に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 石綿含有建材調査者は、維持管理の注意事項を調査報告書に記載する際には、年に数回程度の入室者にも、あるいは将来の改修工事の作業者に対してであっても、粉じんばく露の可能性があることが伝わるようにする。
- ㊷ 石綿含有建材の劣化判定は、「劣化」または「劣化なし（劣化が見られない）」という2局化した分類のみであり、その中間に該当する抽象的な判定を行わない。
- ㊸ 撮影に際しての留意事項として、対象物は広角撮影と近接撮影（アップ）を行う。
- ㊹ 現地での調査写真撮影は、その写真を編集し、報告書を作成する石綿含有建材調査者自身がカメラマンとなることが望ましい。

33. 目視調査の記録方法に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 吹付け石綿の化粧仕上げの経年劣化による表面の毛羽立ちなどは、石綿含有吹付けロックウールと較べて相対的に少ないといえる。
- ㊷ 調査する部屋に天井にボードがある場合は、囲い込み工事済みと考え、飛散の可能性はない、若しくは低いと安易に判断してはならない。
- ㊸ 解体・改修時の事前調査結果の報告書について、厚生労働省の通達では、「石綿含有建材の有無とその面積」を明確にすることが求められている。
- ㊹ 「劣化なし」とは、おおむね全般的に損傷箇所や、毛羽立ちなどの劣化が進んだ様子が見受けられない状態をいい、外的な要因や経年劣化が進んでいない、普通に使用している場合を表す。

34. 建材の石綿分析に関する㊶～㊸の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊶ 定性分析方法 1 及び定性分析方法 2 は、アスベストの含有の有無の判定基準は同じである。
- ㊷ 事前調査に係る採取試料中の石綿分析方法としては、石綿含有の有無と種類についての「定量分析方法」と、石綿がどの程度含まれているかを分析する「定性分析方法」がある。
- ㊸ 定性分析法 3 の電子顕微鏡法は、定性分析法 1 または定性分析法 2 を補完するものであり、定性分析法 3 単独で石綿無しの判定を行う方法ではない。
- ㊹ 定性分析方法 2 及び定量分析方法 1 は、建材製品中のアスベスト分析だけを対象としているものではない。

35. 建材の石綿分析に関する㊶～㊸の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊶ アスベスト分析マニュアルでは、定性分析方法 2 は、X線回折分析法と位相差分散顕微鏡法を併用した定性分析方法で、判定基準に基づいて石綿含有の有無を判断する方法である。
- ㊷ 定性分析方法 1 及び定量分析方法 2 は、建材製品、天然鉱物のアスベスト分析には適用できるが、それらを原料としてできた製品中のアスベスト分析には適用できない。
- ㊸ 石綿等の使用の有無を分析により調査するとは、「石綿等がその重量の 0.5% を超えて含有するか否か」について分析を行うものである。
- ㊹ 定量分析方法 2 は、位相差分散顕微鏡を用いた定量分析方法である。

36. 調査票の下書きと分析結果チェックに関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 定性分析方法 1 の分析結果の場合、層別の区分や結果に疑問や違和感がないかを確認する。
- ㊷ 分析結果のチェックにおいて、送付した「試料番号」や「試料名」と分析結果報告書の記載に相違がないかを確認する。
- ㊸ 分析機関から結果速報や分析結果報告書を受領後は、分析機関から送られてきた結果には間違いはないため、特にチェックを行う必要はない。
- ㊹ 試料を分析機関に送付後、部屋別の目視調査個票を下書き程度でもよいので、調査日からあまり時間を経ずに、忘れないうちに部屋別に整理しておくことが望ましい。

E 建築物石綿含有建材調査報告書の作成

37. 目視調査総括票の記入に関する㊶～㊸の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ㊶ 所有者情報提供依頼概要欄における調査報告書の有無は、過去に実施した調査報告書が存在する場合、その報告書を全ページともコピーし、今回の調査報告書に添付する。
- ㊷ 今回調査の概要欄における調査者氏名は、本調査を主体的に行った者の氏名及び登録番号を記載する。また、補助した者の名前についても必ず記載する。
- ㊸ 今回調査できなかった箇所欄において、部屋への立ち入りができず検体採取ができなかった、機械類を撤去した後でなければ試料採取ができない、その他、構造上・立地条件等の問題で試料採取が不可能な箇所については、詳細を調査報告書に記載しなくてはならない。
- ㊹ 石綿を含有しないと判断した建材は、その判断根拠を示す。

38. 目視調査個別票の記入に関する㊶～㊸の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊶ 写真集の作成にあたっては、石綿含有建材調査者以外に補助員を用意し、撮影させることで、様々な構図や異なる視点が得られる。
- ㊷ 外観の記入においては、外壁の構造の種別に違いはないため、建築物正面側の化粧仕上に注視すればよい。
- ㊸ 同じような部屋を次々と調査するような場合には、効率よく調査を行う必要があるため、調査対象部屋内でメモ書きなどを行うことは避け、調査完了後速やかに部屋ごとの調査結果をまとめておく。
- ㊹ 目視調査個別票は部屋別の作成を基本とするが、小規模の建築物などではフロアごとの作成も可とされる。

39. 調査報告書の作成に関する㊦～㊨の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊦ 分析機関から、結果速報や石綿分析結果報告書を入手した結果、石綿含有建材調査者の目視推定と結果報告が乖離していたり、あり得ない結果だったなど、少しでも疑義があった場合は、分析機関に問い合わせ、原因を把握することが重要である。
- ㊧ 石綿含有建材調査者は、分析結果の報告まで含めて、調査全般を差配しているが、分析結果は分析機関に責任があるため、内容についての依頼者への説明は責務の範囲を区別して行うべきである。
- ㊨ 調査報告書には、調査結果から得られた情報を記載するにとどめ、劣化状況による対策の必要性や改修・解体工事時の留意点など建築物所有者が行うべきことについてアドバイスなどを記載する必要はない。
- ㊩ 石綿含有建材の事前調査結果は、石綿を含有しない建材については、記録する必要はない。

40. 所有者等、地方公共団体への報告に関する㊦～㊨の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ㊦ 地方公共団体に対して調査結果を報告し、報告を受けた地方公共団体は、国土交通省・経済産業省が公表している「石綿（アスベスト）含有建材データベース」に調査結果を入力することとなる。
- ㊧ 報告に当たっては、建築物における石綿の健康影響に関する基礎知識、リスクコミュニケーションの知識とその実施に関する技術などを踏まえ、建築物の所有者等の利益を優先してアドバイスすることが重要である。
- ㊨ 建築物の発注者等は、建築物の解体・改修を行う場合、守秘義務があるため、施工者に調査に関する情報は開示できない。
- ㊩ 調査者は、元請業者等（維持管理のための調査の場合は、建築物の所有者等）からの依頼を受けて、書面調査、目視調査、分析調査（分析調査については、分析機関へ調査依頼することを含む）などを行い、目視調査総括票、目視調査個票、石綿分析結果報告書、その他添付資料をとりまとめた事前調査報告書を作成する。